

第4回下野市行政改革推進委員会 会議録

日 時 平成28年11月10日(木) 午後1時30分～4時00分
場 所 下野市役所203会議室
出席委員 杉原弘修会長、飯島陽子委員、関口博之委員、小久保武委員、水上美紀委員、
大木徳委員、園部小由利委員、中林佳子委員
欠席委員 飯野洋委員、長光博委員
出席者 (産業振興部)
高德産業振興部長、小谷野商工観光課長、神戸課長補佐、山内課長補佐
(総合政策部)
長総合政策部長、星野総合政策課長、野口主幹
事務局 長総合政策部長、星野総合政策課長、古口主幹、猪瀬副主幹、舘野主事
傍聴者 なし

○次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 会議録署名人の指名
 - (2) 行政評価市民評価事業ヒアリング
 - ①雇用創出基盤整備事業
 - ②観光プロモーション事業
 - ③高速道路利用検討事業
 - (3) 全体協議
 - (4) その他
- 4 閉会

○開会

(事務局) 平成28年度第4回下野市行政改革推進委員会を開会いたします。

○あいさつ

(杉原会長) みなさん、こんにちは。本日も長時間となりますが、よろしく願いいたします。

○議事

(1) 会議録署名人の指名

(杉原会長) 今回の会議録署名委員を指名します。本日は、小久保委員・園部委員にお願いいたします。

(2) 行政評価市民評価事業ヒアリング

(杉原会長) それでは、ヒアリングに入る前に、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 事前に配付しました本日のヒアリング資料ではありますが、お持ちください

ておりますでしょうか。お手元がない場合はお申し出ください。事業ごとに市民評価シートを作成していただき、本日の評価シートについては、次回委員会時に回収させていただきますので宜しくお願いいたします。本日のヒアリングの順番につきましては、次第に記載のとおり、①雇用創出基盤整備事業、②観光プロモーション事業、③高速道路利用検討事業の順に各40分ずつヒアリングを実施いたします。なお、本日3事業すべてのヒアリングが終了しました後、30分程度全体協議のお時間を設けておりますので、宜しくお願いいたします。以上です。

(杉原会長) 本日は、3件の事業についてのヒアリングを実施いたします。1件目は『雇用創出基盤整備事業』ですので、担当の方からご説明をよろしく願いいたします。

①雇用創出基盤整備事業

[産業振興部出席者自己紹介]

[商工観光課長から説明]

(杉原会長) ありがとうございます。以上ご説明いただきました。質問等よろしく願いいたします。

(関口委員) 工事着手が平成32年予定とありますが、整備後の売り出しは何年度を見込んでいるのでしょうか。

(商工観光課長) 工事期間は概ね2年程度を見込んでいます。

(関口委員) 市に合併後初めてだと思いますが、旧町からの計画などを引き継いだということはないのでしょうか。

(商工観光課課長補佐) 工業団地においてはございません。

(関口委員) そうしますと、現在、工場誘致に関しては、茨城県・群馬県に負けている状況ということですね。栃木県としては、用地はまだ余っているのでしょうか。

(商工観光課課長補佐) 下野市としては、分譲する土地がありませんでした。栃木県では、開発自体や売り出しなども行っておりますので、土地は余っている状況です。

(小久保委員) 企業側からの意見ということでもないのですが、選定の資料の中に「周辺集落地への影響が少ないこと」とあり、これは大前提だと思われま。安心して住みたい住民と安心して操業したい企業の観点からも、周辺住民への影響を抑えることは、住民・企業・行政にとって非常に重要だと思えますので、宜しくお願いいたします。

(大木委員) 雇用創出基盤整備事業という事業名ではありますが、先ほどのご説明の中に雇用創出についての説明がありませんでした。事業目的に「商工業の活性化によるまちづくりを目指す」とありますが、初めに工業団地整備を早急に着手しますということでしょうか。

(商工観光課長) 産業団地整備につきましては、産業振興計画の中に位置付けしており、新たな企業を誘致し、新たな雇用の創出や拡大を促進することとしております。雇用の場の拡大を図るためには、新たな企業や工場に進出していただかなくてはならないということで、下野市内には工業団地に空きがないため、新たに産業団地を整備するということです。

- (大木委員) 雇用創出を図るために、工業団地を整備し、企業を誘致し、雇用を促進するという考えですね。
- (商工観光課長) はい。
- (飯島委員) 平成28年度の地権者意向調査は委託料とありますが、どちらに委託して調査されたのでしょうか。
- (商工観光課課長補佐) 東日本総合計画株式会社というコンサルティング会社に委託しています。アンケート作成から分析・図面上の表示などを含めた内容で、現在作業中という状況であります。
- (飯島委員) アンケートといいますと、面談などではなく書面での回答ということでしょうか。アンケートはどの程度戻ってきているのでしょうか。
- (商工観光課課長補佐) 書面でのアンケートであり、現在の回収率は5割程度となっています。未回答の方につきましては、職員が個別に対応したいと考えています。
- (園部委員) 整備後に企業等が入ってこないのではどうかと思いますので、企業側から打診がある等の見込みがあるのでしょうか。
- (商工観光課課長補佐) 県を通して市の方に、もしくは市に直接、土地がないかお問い合わせが来ております。お問い合わせの件数については、平成27年度は合計18件、栃木県もしくは栃木県東京事務所経由のものが14件、市に直接のものが4件でした。平成28年度は、10月末現在で合計17件、栃木県もしくは栃木県東京事務所経由のものが6件、市に直接のものが11件であります。
- (商工観光課長) 市内への工場等の新設や増設について、市でも奨励し促進していくため、工場誘致奨励金という制度を今年度から創設しました。新たな工場ができた場合は、5千万円以上の投下固定資産におきまして、地域によって異なりますが、市から固定資産税額分を3年間奨励金として交付するという制度であります。この制度により、企業誘致の促進を図ります。
- (中林委員) 適地候補地選定の評価結果に評価点がございしますが、どなたが評価を行ったのでしょうか。
- (商工観光課課長補佐) コンサルティング会社の専門家が、第三者の目線で客観的に評価を行いました。例えば、インフラの場合ですと、水道管がどこを走っているかなどのデータを基に点数化しております。
- (関口委員) この区域の中で、遊休農地などで広大な所はあるのでしょうか。そういった場所に工場を建てたいといった場合は、どのような対応をするのでしょうか。
- (産業振興部長) この区域の中では、遊休農地が広範囲に広がっているということは見受けられません。遊休農地に工場が入った場合で、遊休農地が青地などであった場合、農業振興地域の除外等様々な手続きが必要となります。きちんとした工業団地があって、そこにスムーズに建物など建てて進出できる方が、企業としてはメリットがあると考えています。
- (杉原会長) このヒアリング資料の中で、環境アセスメントの位置付けはどこにあるのでしょうか。ある程度、適地調査の中で実施していくのかなと思われるの

ですが、経費や期間についてはどのように計画しているのでしょうか。

(商工観光課課長補佐) 現在、栃木県は20ヘクタール以上で環境アセスメントが必要であります。確定はしていないのですが、面積変更で50ヘクタール以上とするとといった動きがあると聞いております。

(商工観光課長) 現在の候補地では面積が40ヘクタール以上ということで、環境アセスメントが必要となりますので、平成29年度から環境アセスメントの調査、30・31年度で評価書等の作成ということで予定しています。

(杉原会長) 29年度から地権者の交渉が始まりますので、環境アセスメントはそれより前に行うべきだと思いますので、予算はどこに組み込まれているのかなと思いました。それは29年度ということで、地権者との交渉と並行して進めていくという形でよろしいでしょうか。

(商工観光課長) はい。

(杉原会長) 期間はどの程度考えているのでしょうか。

(商工観光課課長補佐) 計画では調査から評価書作成まで3年で考えており、29年度から31年度の予定でおります。

(杉原会長) 栃木県内ではあちこちで工場誘致団地の造成が計画されておりますが、優良地など土地のランク付けはあるのでしょうか。

(商工観光課課長補佐) ランク付けはございませんが、昨年度の県の実績順で見ますと、県南地域が半分以上で20件、宇都宮芳賀地域が25%で11件、残りは北部ということで、県南地域は比較的立地件数が多いといった状況であります。

(大木委員) 雇用創出基盤整備事業とありますが、工業団地の他に商業関係の雇用創出基盤は考えてないのでしょうか。スーパーやショッピングモールなどによる雇用創出もあるのではないかと考えます。

(商工観光課課長補佐) 工業団地としてヒアリングが進んでおりますが、実は産業団地ということで市の方では考えております。用途地域として準工業地域とすることで、大型ショッピングモールやホテルなども進出可能となります。

(杉原会長) 他にご質問等ございませんか。それでは終了とさせていただきます。

②観光プロモーション事業

[産業振興部出席者自己紹介]

[商工観光課長から説明]

(杉原会長) それでは、委員の皆様からご質問をお願いいたします。

(飯島委員) モニターツアーは、どちらで募集をかけているのでしょうか。

(商工観光課長) 埼玉や東京圏を中心に、ショッパーという生活情報紙に掲載して募集しております。バス1台44名ということで募集しておりますが、1回目は90名先の応募があり、2回目は137名の応募がありました。抽選といった形で実施しております。

(飯島委員) 値段に惹かれてといったこともあるのでしょうか、アンケートでは、下野市の魅力についてどのような意見があるのでしょうか。

(商工観光課長) 昨年度のアンケート結果によりますと、「自然が豊かである」、自治医大

周辺をバスで通りますので「医療環境が整っている、充実している」、最後に道の駅に寄りますので「道の駅が魅力だ」という意見があります。

(飯島委員) いらっしゃる方は、観光が目的ですね。市としては、最終的に、その方たちに住んでももらいたいと思っているということでしょうか。

(商工観光課長) 最終的には定住人口を増やすこととしておりますが、まずは下野市自体を知ってもらう、下野市に来てもらうということを目的としています。

(飯島委員) 市外に出た際に、下野市を観光ツアーで訪れたという方がいました。薬師寺や国分寺などを周遊する旅行会社のツアーがあって、わざわざツアーで来たということで驚いたのと同時に、歴史好きの方には結構魅力のある市なのだなと思いました。

(関口委員) 以前は、天平の丘などに観光バスが見受けられました。

(商工観光課長) 以前は、「天平の花まつり」がハトバスツアーなどに盛り込まれていました。現在でも、ハトバスはないですが、花まつり期間中には観光バスが来ております。

(関口委員) ハトバスが来る条件として、例えば、農地が広がっているのだから、いちごや、笹原のトマトパークなど見学先として含めてみるとおもしろいのではないかと思います。

(産業振興部長) トマトパークは、柴工業団地にごぞいます株式会社誠和によって、研修施設として建設され、新規就農等を目指す研修生を受け入れております。また、収穫されたトマトについては、市場に出荷されております。

(商工観光課課長補佐) 今年度の第3回目のモニターツアーにおいて、トマトパークが見学先として受け入れてくださいましたので、コースに盛り込む予定でおります。

(関口委員) 先ほどの遊休農地の活用と絡めて、数か所建設し、観光に繋げていければおもしろいのかなと思います。

(商工観光課長) アンケートによると、参加者から体験型の観光コースがあると非常にいいのではないかとのご意見もいただいておりますので、今後、着地型観光ということで、体験もできるようなコースづくりを検討していきたいと思っております。

(関口委員) 石橋地区に6次産業化の施設が整備されているようですが、そういう所もお客さんは喜ぶのではないかと思います。

(大木委員) 観光プロモーションということで、来てもらうことで観光の振興・地域の活性化につながるとありますが、バスの他に、電車でも来てもらうような方策を考えていく必要があるのではないのでしょうか。るぶの後ろには、電車によるアクセスが大きく掲載されておりますし、土日であれば、JRでは「休日おでかけパス」が使える、東京からも往復2,670円で来ることができます。イベント等開催日は土日が多いですし、電車利用の観光客を呼び込むようなお考えがあればお聞かせください。

(商工観光課長) 前年度と今年度は大宮集合によりバスで実施しましたが、来年度からはバスでも来てもらうのではなく、小金井駅を集合場所とし、そこからバスで巡るといった検討をしております。ここは電車では特に便利な場所であり

ますから、いろいろな地域からの募集ができるようになると考えております。また、参加者についても、モニターツアー後に再度来てもらうため、農政課と協力して「しもつけGO」というスタンプラリーの用紙を配付しております。モニターツアーで2か所くらい回りますが、もう一回来ないとスタンプラリー達成とならないようになっており、達成すると野菜を道の駅でプレゼントしますという取組を実施しております。徐々に効果が出てきている段階ではありますが、再度自分で来てもらうための事業を今年度から始めたところでございます

(大木委員) 東京圏からの新しい人の流れを作るとしている中で、JRのお得な切符などと併せてPRすると魅力度が増すのではないかと思います。また、JRではデスティネーションキャンペーンなど行っていますが、市では、そういう連携した取組みのためにJRとの会議や打合せなどは行っているのでしょうか。

(商工観光課長) JRとは常にタイアップしながら事業を取り組んでおります。駅からハイキングという事業では、花まつり期間中、小金井駅から天平の丘公園まで回ってもらうということで、JRとタイアップのうえJRに募集をかけていただいております。観光協会では、戦略委員会というものを立ち上げておりまして、その中のメンバーには駅長等が入っています。また、栃木県が平成30年の春にデスティネーションキャンペーンに選ばれましたので、市においてもJRとタイアップしながら、ちょうどその期間に花まつりも実施しておりますので、ぜひ連携しながら取り組んでいきたいと思っております。

(大木委員) 「休日おでかけパス」の区間は自治医大駅までであります。同じ市内の駅なのだから、石橋駅まで伸ばすようなことはできないのでしょうか。

(産業振興部長) そういった意見がありますので、市長もJRの方に要望活動をしているところですが、叶っていない状況であります。

(園部委員) 私は大宮より南の出身で、雀くらいしか見たことがなかったので、こちらに来てすごく感じたことは、すぐ近くでオナガなどが飛んでいるということでした。市内で見られる鳥などは、あちらの方からしたら新鮮で興味を示されると思います。モニターツアーに参加している方のデータは、どの地域の方なのか、年齢層などは把握されているのでしょうか。

(商工観光課課長補佐) 年齢層は、ツアーのテーマによって異なります。見学内容が子ども受けしそうな企画だと親子連れが多く、秋の芋煮会などではシニアの方が多いなど、ばらつきがありますが、全体としては50・60歳台が多く、女性同士のグループが見受けられるなど特に女性の参加者が多いです。

(商工観光課長) 参加者の地域に関しましては、大宮駅集合ということで、さいたま市・川口市・川越市あたりとなっております。

(杉原会長) 前回ヒアリングした児童館共通事業において、参考としてドイツの児童館の写真をお持ちしております。それを見ていただくと、グリムの館と非常によく似た建築物がございますが、ブロートという所の建物で、この建物の特徴は、18歳までの子どもたちが造った建物で、体験型の建築物とな

っており、子どもたちが数日間合宿体験ができるようになっていきます。

2階には多くの寝室があり泊まれるようになっており、1階は非常に広い土間で焚火やパーティなどができる体験型のオープンハウスでありまして、たいへん喜ばれております。これは、先ほど子どもたちが造ったとご説明しましたが、実はヒットラーの子どもたち、ヒットラーユーゲントが造った戦前の建物で訓練所だったのですが、それが戦後改装されて新しい施設になっています。そこで、グリムの館を見た際に、同じように体験型の施設にしてはどうかと思いました。市内には、グリムの館に限らず、体験型にできる施設は他にもあると思いますので、それを売りにするのは非常に大切で、県内の子どもたちや、県外の子どもたちが集まると思います。また、この観光パンフレットですが、現状にあっていないように感じます。というのも、外国人へのご案内がまったくございません。今は観光と言いますと、要するに外国人をどれだけ集められるか、外国人に付いて日本人がどんどん来ますので、日本人が外国人を連れてくるのではなく、外国人が観光地に日本人を連れてくる状況でありますので、外国人にPRするイベントや施設がないとなりませんし、パンフレットについても同様であります。バージョンアップされる際には、外国人をどこでどう惹きつけたらいいのか、そのあたりも十分に検討していただくことが必要であると思います。15ページに魅力のスポットとしてからくり時計がありますが、写真の撮り方がたいへん上手でして、反対側から撮るとシャッター街になってしまっていると思います。そうしますと、こういった観光スポットということで出かけられた方がどういった印象を受けるかと言うと、私もそうでしたが、これは何なのだろうという印象なのです。費用を掛けて建てたからくり時計ですので、周辺の整備も検討していただきたいと思います。例えば、松山市に行かれますと、坊ちゃん電車のすぐ前からからくり時計があり、時間が来るとすごい人だかりであります。あそこは、坊ちゃん電車との共存関係ですので比較にはなりません、からくり時計だけでもアピール力がものすごくあるのです。しかし、この石橋駅のからくり時計を見て、実際行ってみると、正直がっかりしてしまう面があるかなと思います。その下にありますグリムの館については、先ほども申し上げましたが、イベントハウスとしてお使いになられるのかなという印象を持ちました。それから、オリンピックに向けて、簡易宿泊ができるように国が旅館業法を改正しています。これに便乗しない手はないと思います。お客さんを呼ぶのであれば、ツアーで巡るだけではなく、それを癒すためのご宿泊先があったらいいと思いますし、きちんと整備された方がいいと思います。それにはお金もかかることですので、そう簡単にはいかないでしょうが、民泊のチャンスはいくらでもあると思いますので、ご検討いただきたいと思います。なんととっても、下野市は歴史の街です。特に国道4号は日光社参道路という有名な歴史の道路です。国道4号沿いにおいては他に無いような、開雲寺という将軍がご宿泊なさった立派なお寺がございますので、そのようなお寺に宿泊して江戸時代の大名行列の体験をし、その時代に思い

を馳せてみるのもおもしろいと思います。下野市の魅力というところがたくさんありますので、是非発掘していただいて、それらを活用していただきたいと思います。この「るるぶ」では、グルメ案内のようなものになってしまっていて、勿体ないと感じました。感想として受け止めていただければと思います。

(中林委員) 道の駅とふれあい館が一体化となりましたが、効果は上がっているのでしょうか。

(商工観光課長) 道の駅がふれあい館の指定管理を受けまして、連携した取り組みを進めており、お客様も少しずつ増えております。

(中林委員) 三王山公園整備でキャンプ場やドッグランなど新しくできましたが、あまり周知されていないような気がしますので、もう少し発信していく必要があると思います。以前、夏の時期に行った時にも閑散としておりましたので、せっかく新設したのに勿体ない気がしました。

(商工観光課長) 道の駅でも、野菜などバーベキューセットの販売を始めております。ドッグランは人気があり、たくさんのお客様が見えていると伺っております。

(飯島委員) 電車で来ても、下野市の観光地を巡るには、駅からの移動手段がございません。レンタサイクルかタクシーぐらいしかありませんので、タクシーを利用した際の割引等支援についても考えていただければと思います。せっかく電車で来ても、動きが取れないのもう来ないとなってしまいますので、交通機関について検討をお願いいたします。

(商工観光課長) 市では着地型観光を目指しており、これから委員会を立ち上げて取り組んでいくことを考えています。その中に、タクシー業界の方にも入ってもらい、タクシーで観光地を巡るコースを作りまして、そのコースを利用した際の料金の差額分を市で補助するといった取組を行っている先進地もありますので、検討を進めたいと考えています。

(商工観光課課長補佐) 天平の花まつり期間中は、タクシー組合と観光協会が協議しまして、小金井駅から定額タクシーというサービスを実施しております。利用しやすいタクシー料金設定をし、観光協会が差額分を補てんするといった仕組みは既に取り入れております。そのあたりも踏まえながら、二次交通を地域としても強化していきたいと考えています。

(大木委員) この事業費の半分は国が出してくれるのですか。

(商工観光課長) 地方創生の交付金を活用しており、事業費の2分の1が国から出ております。今後も国の交付金等を可能な限り活用し、事業を進めていきたいと考えています。

(大木委員) 補助があるのならば、さらに予算を取って推進した方がいいと思います。

(杉原会長) 他にご意見等ないようでしたら、ここでヒアリングを終了したいと思います。ありがとうございます。

③高速道路利用検討事業

[総合政策部出席者自己紹介]

[総合政策課長から説明]

- (杉原会長) ありがとうございます。この事業については一番多くのヒアリング希望がございました。それでは、委員の皆様からのご質問お願いいたします。
- (関口委員) 平成24年度の検討段階では費用対効果により設置は困難であったとありましたが、費用対効果はどういう状況だったのでしょうか。また、現在は法律が改正または緩和されて、どのようになっているのでしょうか。
- (総合政策課長) インターチェンジ設置の場合、整備に係る費用(C)と設置後の社会的便益(B)を比較し、『B/C』が1を超えなくてはならないといった基準がありました。平成24年度に試算したところ、1を超えませんでしたので、インターチェンジ設置は困難との結論を出させていただきました。平成26年度にその基準が削除されたことを受けて、再度検討することとし、改めて直近の交通量などにより『B/C』を試算したところ1を超えましたので、国との協議を進めているという状況であります。
- (関口委員) 整備には、どの程度経費が掛かるのでしょうか。
- (総合政策課長) 現時点の試算で約40億円程度であります。その費用負担のうち、NEXCO東日本の負担が約6割、市の負担が約4割です。NEXCO東日本が約24億円、市が約16億円、16億円のうち国の補助金等があり、実質的な市負担は約6億円程度と試算しており、現在精査中であります。
- (杉原会長) この整備によって、市にも勿論メリットがかなりあると思いますし、6億円以上の費用対効果も上がると考えられますが、このスマートインターチェンジの非常に重要なポイントは、自衛隊の連結が非常に近くなって、自衛隊としてはとてもメリットのある、役に立つものであり、国にとってもものすごく価値のある有益な整備となります。そうしますと、いざという時の国の自衛隊発動の際にも非常に役に立つのだから、国がさらに負担するように、国会議員等を通じて訴えられないのでしょうか。
- (総合政策課長) 県と連携し国土交通省への要望活動を行ってまいりました。会長がおっしゃる効果等は要望書の中に加えさせていただいております。
- (関口委員) もうひとつ、宇都宮市へはどうなっているのでしょうか。
- (総合政策課主幹) 宇都宮市の担当者とも協議を行いました。
- (杉原会長) 費用対効果の基準が撤廃されたとのことですが、この変更はインターチェンジに限ってでしょうか。公共事業すべてにおいてというわけではないですよね。
- (総合政策課長) インターチェンジの設置に関してであります。
- (総合政策部長) インターチェンジに関しては、諸外国に比べてずいぶんピッチが長いということもあり、おそらく、積極的にインターチェンジを設置していこうという国の方針により、費用対効果を外したのではないかと考えられます。
- (関口委員) 現在では、どの程度設置されているのでしょうか。
- (総合政策課主幹) 日本では10kmに1か所程度と言われておりまして、世界の標準では4kmから6kmに1か所となっています。国土交通省でも推進していくため、制度改正を行っているという経緯がございます。
- (総合政策課長) 全国で、85か所のスマートインターチェンジが開通し、73か所が事業化を進めています。

(水上委員) 委託先はどちらでしょうか。

(総合政策課主幹) 株式会社シーアイエスという会社です。県内には高速道路に特化したコンサルティング会社がほとんどないため、県内ですと、概ねこちらの会社に頼んでいるようです。

(大木委員) 整備後の維持管理費用はどのようになっているのでしょうか。

(総合政策課長) 料金所等の運営経費負担はNEXCO東日本ですが、料金所までの一般道の維持管理は下野市の負担となります。

(杉原会長) スマートインターチェンジ設置においては、必ず地権者や周辺住民の反対運動が起きるという話を聞いたことがあります。この場合もそういった運動の兆しはありますか。

(総合政策課長) 現時点ではありません。新規事業化候補地として準備段階調査個所の指定をいただければ、その後、土地の測量や予備設計等、地元の説明会等を開催していきます。

(杉原会長) 他にご質問ございますでしょうか。よろしければ、ここで閉めさせていただきます。ありがとうございました。

(3) 全体協議

[特になし]

(4) その他

(事務局) 第2回委員会会議録ですが、事前に委員の皆様へ配付し確認していただいたところ、修正等はありませんでした。他にご意見等なければ確定とさせていただきます、会長と署名人の委員に後程署名をお願いしたいと思います。本日の会議録については、調整次第、配付させていただく予定です。よろしくお願いいたします。本日配付させていただきました緑色の封筒ですが、11月17日の次回委員会の開催通知及びヒアリング2事業の資料を入れております。以上です。

○閉会

(事務局) 以上をもちまして、第4回下野市行政改革推進委員会を閉会いたします。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会 長

署名委員

署名委員